

1

中学生の正広さんは、春休みのボランティア活動で保育施設を訪れた。次の【場面1】～【場面3】における会話を読んで、①～③に答えなさい。

【場面1 園長室にて】

園長 正広さんには四歳児四人を担当してもらいます。今日は

久しぶりの晴天で暖かいから、外で遊ばせてください。それから、みんなと一緒にできる遊びをして、四人全員と仲良くなってください。近くにいますので、何かあったら声をかけてくださいね。

正広 わかりました。よろしくお願いします。

【場面2 遊戯室にて】

正広 はじめまして。僕の名前は正広です。今日はみんなと一緒に遊びたいんだけど、何をしたいかな。

園児 A じゃあ、外で鬼ごっこをしようよ。

園児 B 私はお部屋でお絵かきがいいな。

園児 C 外のほうが楽しいよ。ボール遊びをしようよ。

園児 D 私もお部屋の中がいいな。

正広 今日は晴天で暖かいから、外で遊ぼうか。

園児 A セイテンデ……？

園児 D 外だったら、ブランコに乗りたい。

園児 B 私もブランコならいいよ。

正広 ブランコも楽しそうだね。でもブランコは二つしかないから、みんなと一緒に遊ぶのは難しいかな。みんなと仲良くなりたいたいから、五人でできる遊びをしたいな。Dちゃん、どうしたらいいかな。

園児 D 鬼ごっこならみんなのできるよ。

正広 他にも鬼ごっこがしたいって言っていた子がいたよね。

園児 A 僕だよ。鬼ごっこをしよう。

園児 C じゃあ、僕も鬼ごっこでいいよ。早く行こうよ。

正広 よし、それじゃあみんな一緒に、外で鬼ごっこをしよう。

2

次の文章は、范成大の漢詩「夏日田園雜興」の一節とその解説文である。これを読んで、①～④に答えなさい。

夏日田園雜興

梅子金黄杏子肥

麦花雪白菜花稀

日長籬落無人過

惟有蜻蜓蛺蝶飛

梅子は金黄にして杏子は肥え

麦花は雪白にして菜花は稀なり

日長くして籬落人の過ぎる無く

惟だ蜻蜓蛺蝶の飛ぶ有り

梅の実は黄金色に熟れ 杏の実も大きくなった

麦の花は雪のように白く 菜の花がまばらに残っている

夏の日は長く 垣根のそばを通る人もいない

ただトンボと アゲハチョウだけが飛んでいる

ここに取り上げた絶句は「夏日田園雜興」の第一首目にあたり、初夏の風物を詠った作品です。

前半の二句は綺麗な対句仕立てで構成されており、わずかに十四字の中に「X」「雪白」「杏子肥」「菜花(黄色)」というように色彩を表わす詩語が四つも入っています。美しい色彩の対比は杜甫の「江碧にして鳥 逾 白く 山青くして花然えんと欲す」で始まる「絶句」詩を思い起こさせます。しかも、「梅子」と「杏子」、「麦花」と「菜花」を対比させ、晩春から初夏への移り変わりを鮮明に描きだしています。

後半の二句にも田園ののどかな風景が詠い込まれています。日本的な感覚でいうと、初夏は少し汗ばむほどの陽気ですが、蘇州郊外の初夏はべつとりと汗をかくほどに暑いのです。ですから、昼下がりにには人の通りも途絶えてしまい、トンボとアゲハチョウだけが静かに、音もなく飛び回っているのです。この小動物を画面に描きだしたことが静寂を際立たせています。なにげない表現の中に、深い味わいが含まれているのです。

この後半の二句は、杜甫が「花を穿つ 蛺蝶 深深」として見え 水に点ずるの蜻蛉 款款として飛ぶ」と詠う「曲江」詩を意識してつくったものと思われま

【場面3 園長室にて】

園長 今日の活動はどうでしたか。

正広 園児の意見をまとめるのは難しかったのですが、みんな

仲良く鬼ごっこができてよかったです。

園長 そうですね。ただ、遊び始めるまでは、Bちゃんは少し寂しそうな様子でしたね。

正広 えっ。あ、そうか。Bちゃんに確認のため、Xと聞いて

あげればよかったです。悪いことをしたな。

園長 Bちゃんも笑顔で鬼ごっこをしていたから大丈夫でしょう。念のため、あとで私を声にかけておきますね。



① 「晴天で」とあるが、この表現は園児Aにうまく伝わらなかった。

これを園児にとつてわかりやすい表現に改めるとき、適当なことを解答欄に合うように五字以内で書きなさい。

② []の部分の正広さんの発言について説明したものと

最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア 相手の意向に配慮しつつ、具体的な事実を挙げて希望を伝えている。

イ 相手の希望を聞き入れて、それに添った新しい案を説明している。

ウ 相手の発言の真意を理解できないまま、根拠を示して反論している。

エ 相手の意見を受け止めて、譲歩したうえで目的を聞き出している。

③ X について、正広さんは園長先生との会話の中で反省点に気づいた。【場面1】～【場面3】における会話の内容を踏まえて、

Xに入れるのに適当なことを、十字以内で書きなさい。

ゆつたりと動く時の流れの中にある江南地方ののどかな田園風景が、巧みに詠われています。

(出典 渡部英喜「心にとどく漢詩百人一首」)

(注) 范成大——中国の南宋時代の詩人。 絶句——漢詩形の一つ。

蘇州——中国の江南地方の都市名。

「花を穿つ……飛ぶ」

——杜甫の詩の一節。「花のあいだを行く蝶が奥深くもぐりこんでいるのが見える 水面に尾をつけるとんぼたちがゆるやかに飛びまわっている」という意。

① X に入れるのに適当なことを、范成大の漢詩から漢字

二字で抜き出して書きなさい。

② 「無人過」とあるが、このような状態になる理由について説明

した次の文の []に入れるのに適当なことを、解説文から

十五字以内で抜き出して書きなさい。

夏の昼間は長くて、 [] から。

③ 「雪のように白く」とあるが、この部分で使われている表現技法は、

ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア 直喩 イ 隠喩 ウ 擬人法 エ 倒置

④ 范成大の漢詩で描写されているものとして最も適当なのは、ア～エ

のうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア 自然の雄大さと気さくな農村の人々、穏やかな初夏の田園風景。

イ 季節の鮮明さと蘇州郊外の活気、爽やかな初夏の田園風景。

ウ 果実の豊かさや小動物の尊い営み、にぎやかな初夏の田園風景。

エ 色彩の美しさや季節の移り変わり、のどかな初夏の田園風景。

次の文章は、ある日の放課後、高校三年生の「私」が、高校二年生で従妹の「志摩ちゃん」を訪ねた場面である。音楽ライターを目指している「私」は、音楽の好みが合う友人もできて、充実した毎日を送っていた。これを読んで、①～⑦に答えなさい。

何だかその日は志摩ちゃんと話したくなって、放課後、私は保健室に行ってみた。居なかつたらちよつとがっかりだな、と思つたけれど、志摩ちゃんはちゃんと居てくれた。よく保健室で見かける女子二人と、三人で机を囲んでいた。志摩ちゃんの隣の椅子には、肩の上で髪を切りそろえたふつくらした頬の二年生、向かいには三年の理系クラスの子——長い髪以外は印象の弱い人——が腰掛けていた。

私に気が付くと、志摩ちゃんは「先輩！」と珍しくハイテンションに手を振った。他の二人も、何だか妙ににこにこしている。

「え、何。何かあつたの？」

私が机にかばんを置くと、奥のデスクのほうから先生が出てきて言った。先生まで機嫌良さそうにコーヒーをすすっている。

「志摩さんの書いた文が、雑誌に載つたのよ！」

えつ、と声を上げてしまう。雑誌に文章、ですぐに思い当たつたのは、音楽誌のレビューだった。お便りなどではなく、あくまでも原稿用紙にしっかりと書かれたレビューを募集する雑誌がいくつかある。ライターを志す人なら、「ぼんやりとでも「載つてみたい」と思うことがあるだろう、ちよつとした舞台だ。

がばつと身を乗り出して、志摩ちゃんの前に広げられた雑誌を見ると、ビンゴ。私がいつも買つてる雑誌とは別だけど、同じような読者レビューのコーナーだった。

「目指す永遠なんてどこにもない、けど——スズムシズのゆく先——大住志摩」

志摩ちゃんの名前が、活字になつて雑誌に載っている。こんな田舎でも手に入るようなメジャーな雑誌に。

いきなり雑誌の上に頭を伏せて、言葉を失つた私に、志摩ちゃん以外の二人がヒいているのが明らかに伝わってきた。気まずさを隠すため、私は何とか台詞を探す。

「す、ごいじゃん、こんな雑誌に。普通、大学生とかが載つてるよね、高校生でこんなさ！」

活字に目を泳がせたまま私が言うと、三年生のほうが「え、そうなんだ」と声を上げた。二年生の子が志摩ちゃんの手をつかむのが、視界の端に見えた。

「うそ。すつごいね、志摩！ やつぱ才能あるよお」

才能。二年生の彼女の、底抜けに嬉しそうな声でつむがれたその言葉に、私の心を覆うものが引き剥がされる気がした。さつきまで私を覆っていた、温かい幸福感、ふわふわとした高揚、そういうものがメリッと不自然な音を立てて剥がれたのだ。

文章を読もうとしても、頭に入つてこない。機械的に目で追うことしかできない。

頭を起こすと、志摩ちゃんの控えめな笑顔があつた。私はそこに、遠慮の意を感じ取つてしまう。私に対しての遠慮だ。

頬が、燃え上がるように熱くなった。私はほとんど反射のように立ち上がり、志摩ちゃんとみんなに背中を向けてしまう。

「今週、掃除当番だつた！ ごめん！」

何と不自然な、と自分でも思つたけれど、どうしようもなかった。私は自分のかばんをひつつかんで保健室を飛び出していった。背中にいくらかの困惑の視線を感じた。

自転車を漕いで坂道を飛ばした。鳥になつた気はしなかった。ただただ、地面を必死で走っているのだと思えず、自分のちっぽけさにくんぐん胸をつぶされた。坂の下の本屋には、志摩ちゃんの買う音楽誌が平積みになつていた。私は一番上のをむしりとしてレジに出し、お金を払つてまた自転車で飛び乗った。

家よりもつと遠くに行きたくて、パイパスの高架下の小さな公園で、雑誌を開いた。新鮮なインクのおい、でも私が買う雑誌のものは少し違うにおいがする。何のバンド名も目に留まらない。志摩ちゃんの名前は、すぐに見つけ出せた。

私はそのレビューを、ゆつくり読んだ。ゆつくり読んでも、心臓は落ち着かなかつた。どかどかしたまま、繰り返し読んだ。

志摩ちゃんの書いた文章を、私は初めて読んだ。だからよけいに、自分の身近にいる人が書いたものとは信じられなかつた。志摩ちゃんのレビューは上手かつた。単に小手先だけで上手いんじゃない、考えの

深さや、重さなど、そういうものがダイレクトに伝わってくる文章だつた。

私は志摩ちゃんのレビューを読み終えると、自転車のカゴに雑誌を放つて、来た道に戻つた。家に着いて、机に向かい、原稿用紙を広げた。でも何も書けなかつた。何について書けば良いのかさえわからなかつた。だいたいこの二週間ばかり、ちゃんと音楽を聴いていなかった気がする。ラジオで流れる曲も何となく素通りしていったし、むろん文章を書くことだつてしなかつた。

本棚から、クリアファイルの一つ取り出す。今まで自分で書いたレビューや、ライブの感想なんかが入っているファイルだ。改めて目を通したら、志摩ちゃんの文章とはくらべものにならないほど無様で、わかりづらくて、泣きたくなつた。

(出典 豊島ミホ「ラブソング」)

(注) 理系クラス——大学の理科系の学部(医学・工学・理学など)

への進学を目指す生徒が集まつたクラス。

ハイテンション——気分が高揚していること。

レビュー——批評。

ビンゴ——ぴつたりの中すること。

①——の部分③、④の漢字の読みを書きなさい。

② 次の文中の——の部分①が「その」と同じ品詞であるのは、ア～オのうちではどれですか。当てはまるものをすべて答えなさい。

ア 静かな海を見つめる。 イ あの人の話を聞きたい。

ウ 安心したような顔つきだ。 エ それは何ですか。

オ 大きな声で話す。

③ 「珍しくハイテンションに手を振つた」とあるが、このときの「志摩ちゃん」の心情について説明した次の文の□□に入れるのに適当なことを、二十字以内で書きなさい。

□□を伝え、「私」に共感してもらいたいと思つている。

④ 「文章を読もうとしても、頭に入つてこない」とあるが、このときの「私」の状態を表す四字熟語として最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア 曖昧模倣 イ 空前絶後 ウ 茫然自失 エ 無我夢中

⑤ 「自分のちっぽけさ……つぶされた」とあるが、このときの「私」の心情について説明した次の文の□□に入れるのに適当なことを、五十文字以内で書きなさい。

幸福感を引き剥がされ気持ちの整理がつかず、□□がどんなに増大している。

⑥ 「私が買う雑誌の……においがする」とあるが、このときの「私」の心の動きについて説明したものと最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア 志摩ちゃんのレビューをゆつくり読みたいと思う気持ちに加え、いつもは読まない雑誌がどんなものか、好奇心が募っている。

イ 志摩ちゃんのレビューに関心をもちつつ、現実に向き合えないまま、なじみのない雑誌を受け入れたい気持ちが生じている。

ウ 志摩ちゃんのレビューに興味はなかつたが、彼女の笑顔を思い出し、雑誌を読まなければならぬという思いに駆られている。

エ 志摩ちゃんのレビューを読みたいと思ひ雑誌を買つたものの、初めて名前を聞く雑誌だつたため、違和感がわき起こっている。

⑦ 「泣きたくなつた」とあるが、この理由を説明したものと最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア 絶妙な志摩ちゃんのレビューに嫌悪感をもちつつ、うぬぼれに満ちた自身のレビューを恥ずかしく思つたから。

イ 志摩ちゃんの立派なレビューに圧倒されたために、無様なレビューしか書けなくなつた自分を恨めしく思つたから。

ウ 志摩ちゃんの上手いレビューを見て感心しながらも、自分が昔書いた下手なレビューを見て懐かしく思つたから。

エ 見事なレビューを書いた志摩ちゃんの実力を認める一方で、自分のレビューの稚拙さを痛感し惨めに思つたから。

4

次の文章を読んで、①～⑦に答えなさい。

ボードリヤールが指摘した重要な点は、「必要な物」の変化のメカニズムが大いに機能するようになる、「人は決して満足しなくなる」ということです。本来ならば、不便な状態を解消するために物を手に入れて、「便利になって良かったなあ」となって「メダタシ、メダタシ」となるはずだったのに、「あれも必要だ」、「もっと新しいのが欲しい」と常に思わされることになり、欲しかった物を手に入れてもちつとも満足できない、という状態が現れます。こうした状態を、ボードリヤールは「新しい疎外」と呼びました。物が足りないことによる不幸から脱出するために、物があふれる社会をつくったのに、かえってそのことによつて、物を手に入れても少しも満足できない。次々と新しいものを追い求めるよう欲望が煽られることで、常に欠乏を感じるような状態がつけられてしまった。これは、新しい不幸ではないか、と。

さらにボードリヤールは、「物の消費から意味の消費へ」という指摘もしています。それはどういうことなのか。不便や不快を解消するために物を手に入れたいという欲望には限度があります。それゆえ企業は、限度を突破するために、広告センリヤクなどを通じて欲望を煽り立てるわけですが、その際には、「これが必要だから」というアピールだけでは十分ではなくなつてくるので、「これがカッコいいから」ということ、言い換えれば、「あなた自身がその物を通じて満足する」ことよりも「他人から X の眼差しを向けられること」で満足する」であろうことをアピールするようになります。こうして、人々の物に対する欲望は、「ないと困る」から「あれば便利・快適だ」を通じて、「あるとカッコいい」物を求めるように変化していきます。この変化は重大です。例えば、物を食べることを考えてみましょう。何も食わずに生きていくことは絶対にできませんから、食事は絶対に必要、「ないと困り」ます。どんなに不味い物でも栄養さえ摂れば生きてはいけますが、多くの人はできれば美味しい物を食べたいと考えます。「美味しい」とは「快さ」の一種ですから、美味しい物は「あれば快適」です。ここまでは「物に対する欲望」であると言えますが、「メディアで話題になつていいるあのレストランに行きたい」となると話がかわつてきます。美味しい物はいくらでもあるわけでも何を食べてもよいわけですが、「あの有名な洒落な店で食事をしたんだよ」と周囲に言いたいために食事をするならば、これは「物に対する欲望」に基づいて行動しているというよりも、周囲から「自分はこう見られたい」という欲望を動機として行動していることになります。つまりここで、欲望の向かう対象が「物そのもの」ではなく、物に付随する「意味」や「記号」に変化しているのです。

大事なのは、物を食べれば、お腹が一杯になつて（＝食欲が満たされて）欲望は消滅しますが、「意味」はいくら食べてもお腹が一杯にならないということです。メディアが着目する「洒落な食べ物」や「洒落なお店」は、次から次へと現れてきますから、いくら頑張つてそれを追いかけても、満足することはありません。このように、物を消費する目的が物そのものから満足（⑤）をエることから、それに付随する「意味を消費する」ことへと変わったとき、どれほど消費をしてもちつとも満足できないという不幸な構造が完成するのだ、とボードリヤールは指摘しているのであり、そうした構造が確立した社会を「消費社会」と呼んでいるのです。

しかも、人々の消費への欲望は景気の浮沈を握っています。みんなが「もう別に要らないよ」という状態になつてしまつたら、つくつた物が全然売れなくなつてしまい、極端な場合、経済が崩壊してしまふのです。ですから、物をどれだけ手に入れても決して満足できないような不幸な状態に人々が置かれることによつて経済全体が回る仕組みのなかに、私たちは現実には置かれていいるということです。

〔出典 白井聡「消費社会とは何か——『お買い物』の論理を超えて」〕

〔注〕ボードリヤール——フランスの社会学者。

① ——の部分㉔、㉕を漢字に直して楷書で書きなさい。

② 「メカニズム」の意味として最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

- ア 欲望
- イ 眼差し
- ウ 対象
- エ 仕組み

③ 「欲しかった物を……という状態」と同じ意味の表現を、文章から十三字で抜き出して書きなさい。

④ X に入れるのに最も適当なことは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

- ア 憐憫
- イ 感謝
- ウ 羨望
- エ 軽蔑

⑤ 「周囲から……している」とあるが、この具体例として適当でないのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア クラスで花柄の小物が流行しているの、容量は気にせず、ピンクの華やかな花の柄が付いた筆箱を購入する。

イ 有名百貨店の袋に入れて高級感を出したかったので、母の誕生日プレゼントを、その百貨店に行つて購入する。

ウ 丈夫で形も気に入つていた愛用のバッグに穴が開いたので、同じブランドの、よく似た形のバッグを購入する。

エ 人気芸能人が新ブランドのTシャツを着ている姿をテレビで見たので、通信販売を利用して、同じ物を購入する。

⑥ 「経済が崩壊してしまふ」とあるが、この部分について説明した次の文の [] に入れるのに適当なことを、文章中のことばを使って三十字以内で書きなさい。

「消費社会」では、 [] と、経済全体が回らなくなる。

⑦ この文章を国語の授業で学習した後、先生が「参考資料」を配付した。次の文章Iは「参考資料」で、文章IIはそれを読んだ三人の生徒の会話である。これらを読んで、「望ましい消費の在り方」というテーマで、あなたの考えを条件に従つて八十文字以上百文字以内で書きなさい。

条件

1 一文目には、解答欄の書き出しに続けてあなたの考えを書くこと。

2 二文目以降に、あなたの考えを支える具体例（見たり聞いたりしたことや体験したことなど）を挙げること。

I

いちばん見たかったのはアテネにあるパルテノンです。古代ギリシャ時代に建設された神殿で、コルピュジェが「感動した」と書いていたばかりでなく、京都大学に行つていた友人に、「パルテノンとローマのパルテオンだけは見ておけ」と言われていました。教養ある人がそこまで言うのだから、見ておかなければと思つたのです。

ところが行つてみると、どこがよいのかさっぱりわかりませんが、専門家は「円柱がすごい」「装飾がすごい」などと述べていますが、それも全然わからない。

みんなが「よい」と言うのだからよいのだろうけれども、自分にはわからない。そう思うと、逆に探求心が出てきました。

それから始めた勉強の甲斐があつて、その後、少しずつわかつてきました。と同時に、世のなかには自分の知らないことが山ほどあることもわかつてきました。世界にはすごいものがたくさんある。そして人間の探求心には限りはなく、よいものをよいと理解できるようにするには時間がかかる。そういったことがわかつたことが、パルテノンを訪ねたことの最大の収穫です。

〔出典 安藤忠雄「15歳の寺子屋 境界をこえる」〕

〔注〕コルピュジェ——スイス生まれのフランスの建築家・画家。パルテオン——ローマ市内にある古代ローマの神殿。

II

太郎 白井さんの文章を読んで、僕は「あるとカッコいい」や「話題の」という言葉につられて買いたい物をしてしまう傾向にあると気づいたよ。反省しなくちゃ。

花子 私は「あるとカッコいい」物や話題になつていいる物を買うことが、悪いことだとは思わないわ。流行に敏感でありたいから、これからも話題の物にいち早く反応していきたいわ。

幸子 私は参考資料が印象に残つたわ。安藤さんは、みんなが「よい」と言つても、その「よさ」を自身が理解することを大事にしていいると思うの。安藤さんの文章から、自分で判断したり選択したりすることについて考えさせられたわ。

